

イタリア料理

名店が世に問う**新**コンセプト





ホッピーが生み出す東京の地ビール
「赤坂」「日本橋」「深大寺」「調布」



赤坂ビール(エルゼン)
 (他にミュンヘン、ルビンロートがある)



日本橋ビール



深大寺ビール(エルゼン)
 (他にミュンヘンがある)



調布ビール

正直、ホッピーのことはあまりよく知らない。とはいえ最近よく飲む。

初めて意識して飲んだのは、かれこれ10年ほど前だろうか、東京北区王子の古い居酒屋。「樽ホッピー」という名前で、なんでも樽に入っていて生ビールのように注ぎたてを味わえるホッピーだという。きめ細かい泡とキーンと冷えて爽快な味わい、アルコールは強くて、結構酔っ払っちゃった記憶がある。

以来、ずんぐりとした業務用ボトルのホッピーと「通はキンミヤ」とかいっちゃって、物知り顔で割って飲むことも増えたし、「ナカ」「ソト」という意味も今なら知っている。

先日、横浜野毛の「ホッピー仙

人」なる人気店まで出かけ仙人様に注いでいただき数種類を堪能してきた。

そもそも関東でしか見ないのでホッピーを知ったのは上京してからだし、居酒屋で見るホッピーの看板は、どうしてもおっさんイメージが強く、私には関係ないものとして脳内スルーしていた。ソムリエとして幅広い酒類知識をなぞると思っても、どうにもきつかけがなかったのだ。

意識したのは女性社長が就任したと知ったこと、それをきっかけに(だとするが)イメージが可愛くおシャレになったこと。自分好みの濃度とかホッピーの量によつては)炭酸具合を調整できるのが実にいいことを知った。

友田流はボトル1本に対し「ナカ」の

おかわり3回。焼酎多いかしらん?

先日、大丸東京店の地下で、ホッピー地ビールの試飲販売をやっていたのを見かけた。時間がなく通り過ぎてしまったのだけれど、ホッピーさんは地ビールも手掛けていたのかとますますながらまた驚き。それも「赤坂」「ホッピー発祥の地」「日本橋」「深大寺」「調布」と誰かが「発祥」で東京をイメージできる地名ビールばかりでラベルもかわい。

東京は実は各地に名酒が存在する。武蔵野に清酒、伊豆七島に本格焼酎。最近では都内で醸造する東京産ワイン

各330ml、2822円(調布ビール、日本橋ビールは各3000円)
 ホッピービバレッジ
 TEL 01205113788

も登場してきている。ここに赤坂や日本橋など、東京のまん真ん中で生み出される東京の地ビールが加われば、まさに「東京の酒・ワンダーランド」ができる。

おもてなしのオリンピックにはお酒が必須だ。だって、世界中どこを見てもおもてなしにお酒は欠かせないのだから。おもてなしは、「我が国の、わが地域の誇りである酒をまずは二杯お飲みください」というところから始まるのだ。東京のお酒たち、今一度見直す時が来ているように思う。